

取扱説明書

ハウス オリジナル アパートキッチン

このたびはクリナップ商品をご購入いただきまして誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、みなさまに商品を安全にそして長い間ご使用いただくために、注意事項やお手入れ方法についてまとめたものです。
ご使用前には必ずお読みいただき、以後も手近に保管し、ご活用くださいますようお願い申し上げます。



※左のコードは、下記の番号を意味しています。
商品に関する情報にはアクセスできません。

W102972000

2205B-28-01

適応機種

この取扱説明書は、ハウスオリジナルアパートキッチンに適応するものです。

もくじ

●各部のなまえ	2～3
キッチンセットの参考図	2～3
●定期的な点検	4
●安全にお使いいただくために	5～10
●ご使用方法について	11～22
シンクやワークトップのサビや傷などを防ぐために	11
洗剤バスケットの使い方（洗剤バスケット付シンクのみ）	11
排水トラップの使い方	12
キャビネットの使い方	13
包丁差しの使い方	13～14
引出しの脱着・調整のしかた	14～16
扉の調整のしかた	16～17
取っ手の調整のしかた	18
ワークトップ上に炊飯器などを置いて使う場合	18
扉開放防止部品付キャビネットの使い方	18
棚板の取り外しと取り付けのしかた	19
ムーブダウン吊戸棚の使い方	20～21
●お手入れ方法について	22～26
ステンレスワークトップ、ステンレスシンク、排水プレート・排水フタのお手入れ	22
人工大理石ワークトップのお手入れ	22
排水トラップのお手入れ	23
排水パイプ・ホースのお手入れ	24
洗剤バスケットのお手入れ（洗剤バスケット付シンクのみ）	24～25
包丁差しのお手入れ	25
樹脂部品のお手入れ	26
キャビネット、扉のお手入れ	26
丁番のお手入れ	26
関連機器のお手入れ	26

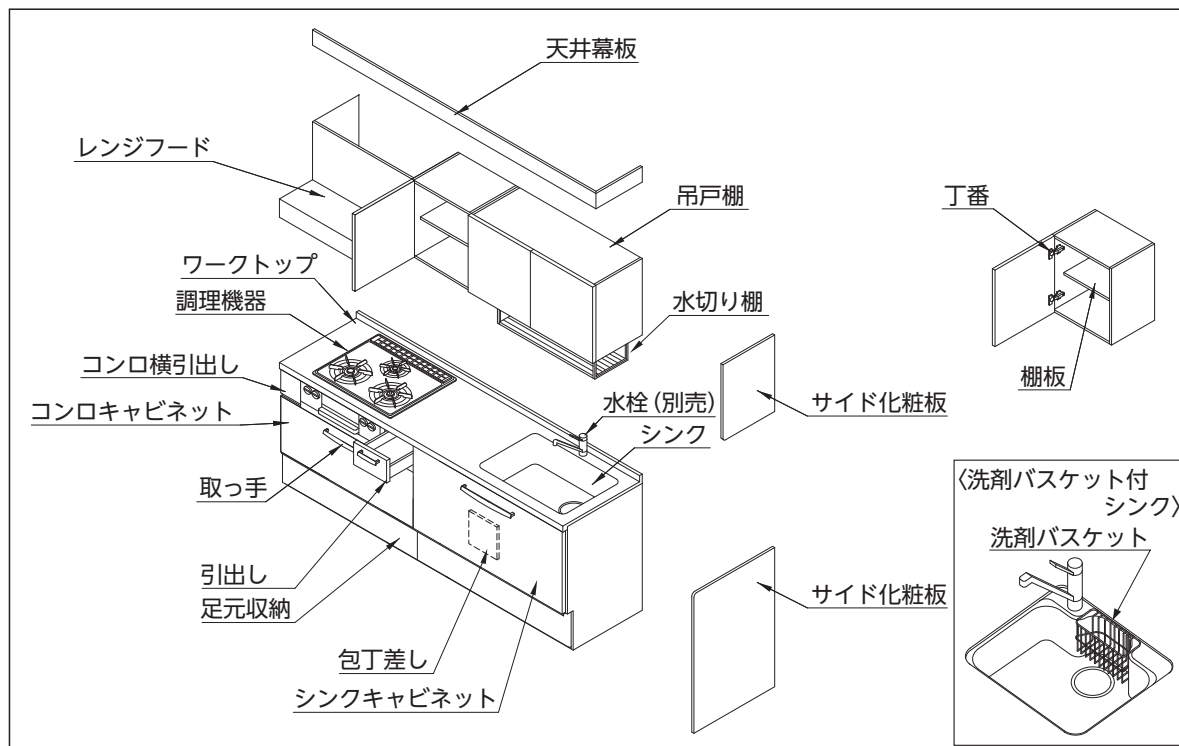
各部のなまえ

この取扱説明書では、使用上支障のない範囲で略図を使用しておりますので、一部実際の商品と異なる部分がございます。ご不明な点は、お手数ですが担当のハウスメーカー営業所またはクリナップ株式会社までお問い合わせください。

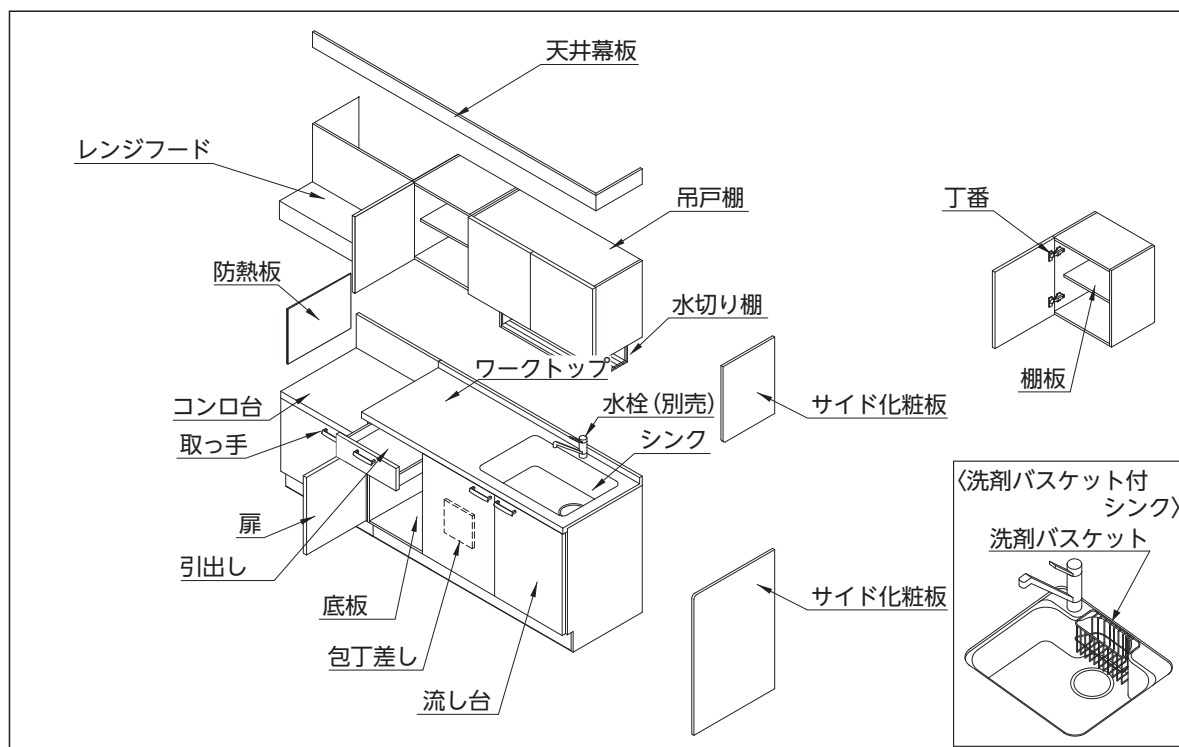
下図は、キッチンセットの参考図です。商品・種類によって左右勝手・扉・シンクなどが下図と異なります。

■キッチンセットの参考図

〈システムタイプ〉



〈段落ちタイプ〉

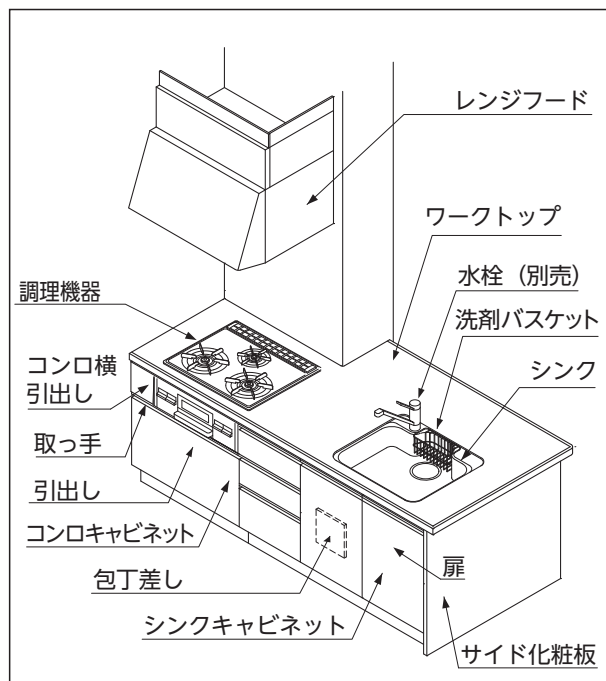


- 上図は、I型キッチン（間口2100mm、2120mm）タイプの参考図です。
商品・種類によって、左右勝手・扉・シンクなどが上図と異なります。

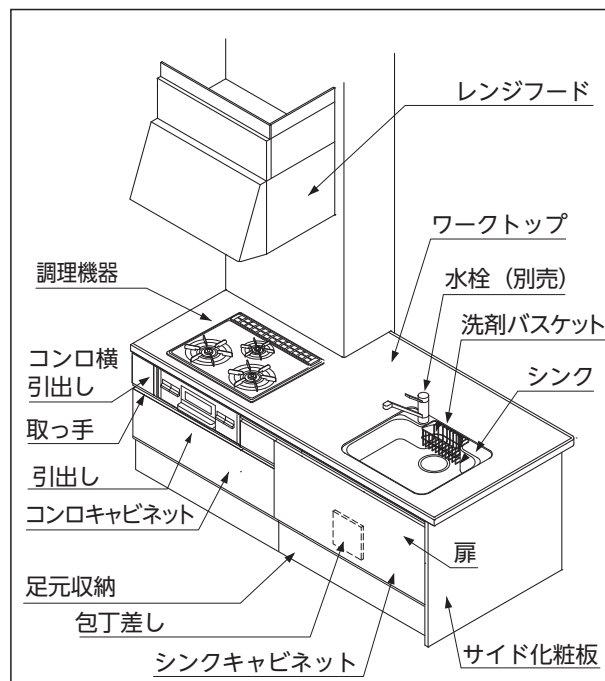
各部のなまえ

■キッチンセットの参考図 (つづき)

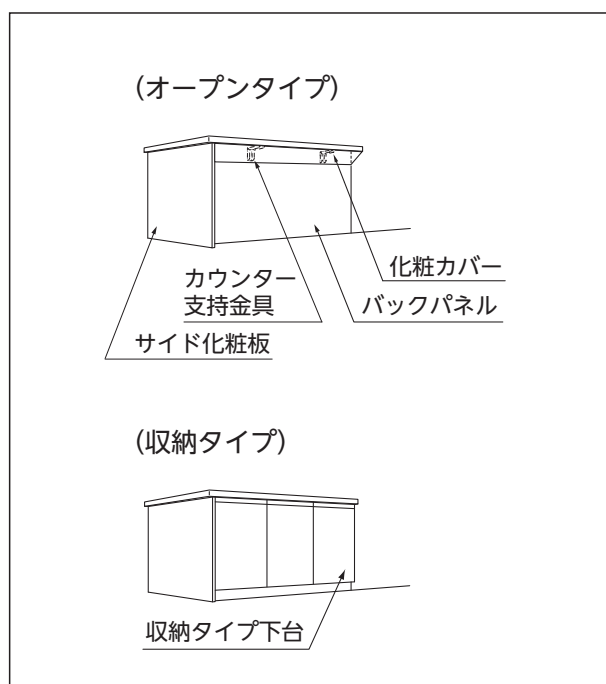
〈フラット対面タイプ／けこみ〉



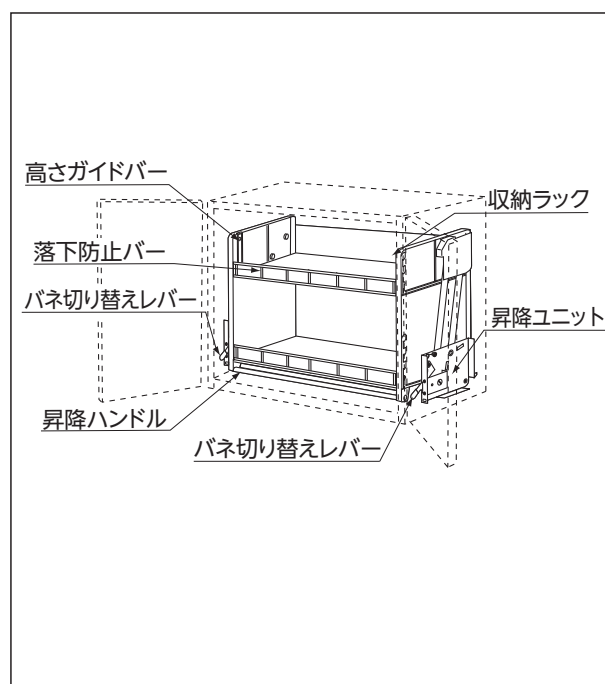
〈フラット対面タイプ／足元収納〉



〈ダイニング側〉



〈ムーブダウン吊戸棚〉



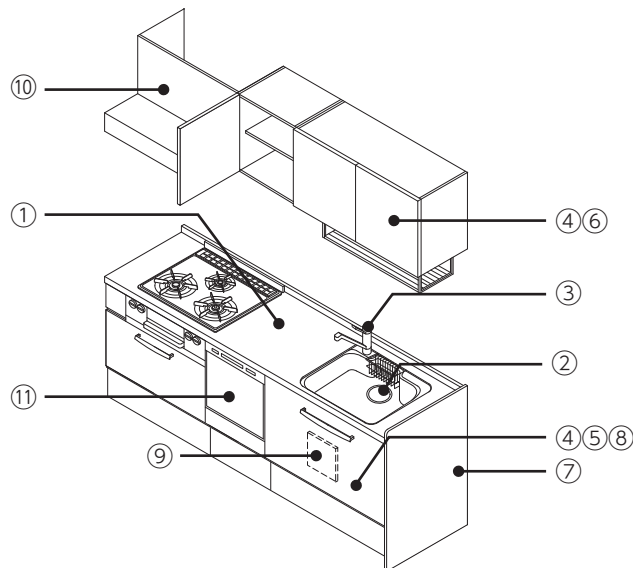
- 上図は、フラット対面型キッチン（間口 2150 mm）タイプの参考図です。
商品・種類によって左右勝手・扉・シンクなどが上図と異なります。

定期的な点検

商品は長期間ご利用いただくことで、経年劣化してきます。安全にお使いいただくために、定期的に水漏れ点検と安全点検を行ってください。水漏れ点検は月一度、安全点検は年一度が目安です。

水漏れがあった場合、元栓や止水栓を締めてから、速やかに担当のハウスメーカー営業所またはクリナップ株式会社へご連絡ください。

また、使用時に、部品が破損・脱落したり、ゆるんだりしている場合は、速やかに担当のハウスメーカー営業所またはクリナップ株式会社に修理を依頼してください。そのまま放置していると思わぬ事故の恐れがあります。





点検箇所	点検の種類	点検方法	症状	想定される被害
①ワークトップ・シンク	水漏れ点検	ワークトップ、シンクに穴開きやひび割れがないか確認してください。	穴開きやひび割れ	水漏れによる家財等の破損、破損部接触によるケガ
②排水器具	水漏れ点検	キャビネットの扉・引出しを開ける、または引出しを外して、水漏れがないか確認してください。	排水接続部のゆるみ、破損	水漏れによる家財等の破損
③水栓金具	水漏れ点検	水栓金具を操作して、本体やレバーにガタつきがないか確認してください。	本体やレバーのガタつき	水漏れによる家財等の破損
	安全点検	レバーを操作して温度調節が適正にできるか確認してください。	温度調節ができない	熱湯によるやけど
	安全点検	水栓金具本体やシャワーヘッド、レバーなどのめっき部にはがれがないか確認してください。	めっき部のはがれ	はがれためっき部によるケガ
	水漏れ点検	キャビネットの扉・引出しを開ける、または引出しを外して、水漏れがないか確認してください。	キャビネット内の配管、接続部、シャワーホースの水漏れ	水漏れによる家財等の破損
④扉	安全点検	扉を開閉して、変形やガタつき、異音がないか確認してください。	変形やガタつき、異音	落下によるケガおよび家財等の破損
	安全点検	扉の表裏面にひび割れやはがれがないか確認してください。	ひび割れや表面のはがれ	破損部接触によるケガ
⑤取っ手	安全点検	取っ手のめっき部にはがれがないか確認してください。	めっき部のはがれ	はがれためっき部によるケガ
⑥吊戸棚	安全点検	吊戸棚が正常に取り付けられているか、ガタつきがないか確認してください。	本体の変形、ガタつき	落下によるケガおよび家財等の破損
	安全点検	棚板が正常に取り付けられているか、ガタつきがないか確認してください。	棚板の変形、ガタつき	落下によるケガおよび家財等の破損
⑦キャビネット	水漏れ点検	キャビネットの扉・引出しを開ける、または引出しを外して、水漏れがないか確認してください。	キャビネット内で水が漏れている	水漏れによる家財等の破損
⑧引出し	安全点検	引出しに変形していないか、ガタつきがないか確認してください。	変形やガタつき	落下によるケガおよび家財等の破損
⑨包丁差し	安全点検	包丁差しにガタつきがないか確認してください。	ガタつき	包丁差しおよび包丁自体の落下によるケガ
⑩レンジフード	安全点検	レンジフードの幕板、整流板、フィルターなどにガタつきがないか確認してください。	幕板、整流板、フィルターのガタつき	落下によるケガおよび家財等の破損
⑪食器洗い乾燥機	水漏れ点検	食器洗い乾燥機周りに水漏れがないか確認してください。	水漏れ	水漏れによる家財等の破損

点検の結果、不備があった場合は、担当のハウスメーカー営業所またはクリナップ株式会社へご連絡ください。




安全にお使いいただくために

安全上のご注意（必ずお守りください）

- ここに示した注意事項は、守らないと人身事故や家財の損害に結びつくものです。
安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる場所に必ず保管してください。
- 表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で説明しています。

 警告	この表示の欄は、「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度」をいう。
 注意	この表示の欄は、「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

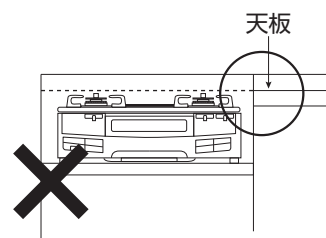
- お守りいただく内容の種類を、次の図記号で区分し、説明しています。

	このような図記号は、商品の取り扱いにおいて、その行為を禁止する図記号です。
	このような図記号は、商品の取り扱いにおいて、注意を喚起するための図記号です。
	この図記号は、商品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制する図記号です。

警告

- ◎右図のように天板より低い調理機器を設置しないでください。

調理機器の熱により、キャビネットなどが加熱され、火災の原因になることがあります。



- ◎電源コンセントの表示容量（ワット）を超える電気器具を使わないでください。

発熱により、火災の原因になります。



- ◎キッチンに組み込まれている機器、市販の調理機器などについては、それぞれの商品に付属の取扱説明書および商品本体に表示されている事項をお守りください。
使い方を誤ると、思わぬ事故や故障の原因になることがあります。



- ◎調理機器の使用後や外出時には、スイッチが「切」になっていることを確かめてください。

周囲の可燃物に着火し、火災の原因になることがあります。

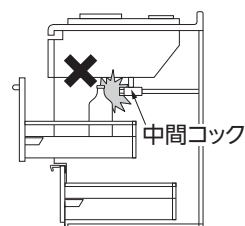


安全にお使いいただくために

警告

◎コンロ下の引出しに収納するものは収納物の高さに注意してください（ガス機器の場合）。

収納物がガス栓（中間コック）と接触して、ガス栓が閉じてしまう恐れがあります。



◎調理機器の上や周りには、燃えるものを絶対に置かないでください。

スイッチの切り忘れなどにより着火し、火災の原因になることがあります。



◎調理機器を使っているときは、その場を離れないでください。

高温になりすぎて、火災の原因になります。



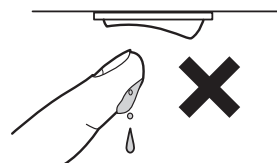
◎キャビネット内に電気コンロ、ガスコンロ、ガス炊飯器などの加熱機器を置いて使用しないでください。

キャビネットが加熱され、火災の原因になります。



◎ぬれた手で電気製品を触らないでください。また、電気製品に水をかけないでください。

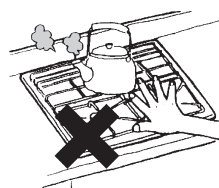
感電や、故障の原因になります。



注意

◎調理機器の使用や使用直後は、調理機器周辺に手を触れないでください。

放熱する熱などで熱くなり、やけどの恐れがあります。



◎扉が傾いたり、ガタついているときは、^{ちょうぼん}丁番のねじを締め直してください。

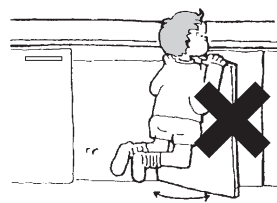
扉が落ちて、ケガをする恐れがあります。

※扉の調整のしかたは、P.17～P.18をお読みください。



◎扉や取っ手、棚および引出しにぶら下がったり、扉を大きく開けすぎないでください。

扉や取っ手、棚および引出しが外れて、ケガをする恐れがあります。



◎引出しの取り外し、取り付け、調整などをする際、またはキャビネット内のお手入れをする場合は、引出しレールや部品などに十分注意して行ってください。

手や指などにケガをする恐れがあります。



安全にお使いいただくために

⚠ 注意

◎棚受けダボは確実に奥まで差し込んでください。
棚板が落下して、ケガをする恐れがあります。



◎床面に油などが飛び散ったらすぐに拭き取ってください。
足を滑らせて転び、ケガをする恐れがあります。



◎シンクにまな板を渡した状態で、カボチャなどの硬いものや切りにくいものを切らないでください。
まな板がシンクから外れて、ケガをする恐れがあります。
ワークトップ上で作業をしてください。

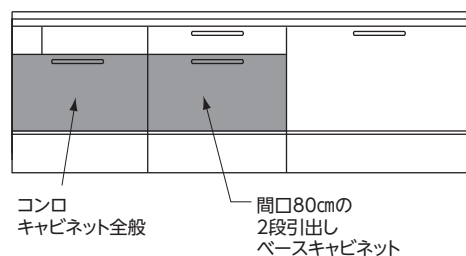


◎キッチンの引出し、吊戸棚や各キャビネットへの収納は、
下表の耐荷重以下として、収納物を均等に載せてください。
重量が限度を上回ったりかたよったりすると、棚板や引出しの破損につながったり、載せているものが落ち、ケガをする恐れがあります。



部位	耐荷重
棚板一枚	20 kg
サイレントレール (右図黒塗り部) 引出し 1 段	40 kg
サイレントレール (右図黒塗り部以外) 引出し 1 段	20 kg
スタンダードレール引出し 1 段	12 kg
樹脂引出し 1 段	5 kg
コンロ横引出し	2 kg
ムーブダウン吊戸棚	15 kg

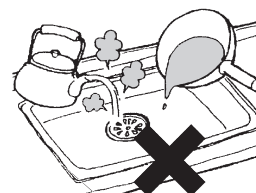
〈サイレント引出しの場合〉



MEMO

- ・ 20 kg = 直径 26 cm の大皿 25 枚以内が目安です。
- ・ サイレントレール引出しとは、両側が白色の引出しです。
スタンダードレール引出しとは、両側がクリーム色の引出しです。

◎てんぷら油や多量の熱湯を、直接排水口に流さないでください。
排水器具などが変形し、水漏れの原因になります。また、排水管のつまりの原因になります。



◎包丁差しを固定しているねじは外さないでください。
包丁の落下につながり、思わぬケガをする恐れがあります。



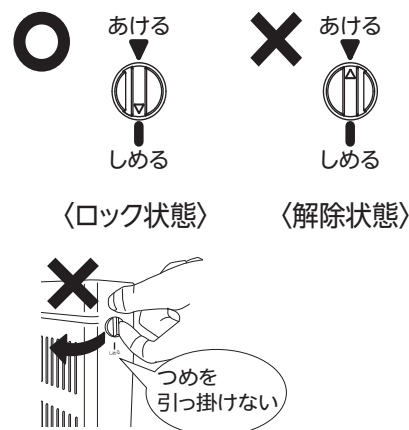
◎包丁差込口に、確実に包丁を差し込んでください。
扉を開いたときに包丁が外れ、ケガをする恐れがあります。



安全にお使いいただくために

⚠ 注意

- ◎包丁を無理に引っ張らないでください。
勢いよく包丁が抜け、ケガをする恐れがあります。包丁が抜けなときは、一度正しい収納位置に戻してからまっすぐに引き抜いてください。
- ◎包丁を差したまま包丁差しや引出しのお手入れを行わないでください。
包丁の刃に触れ、ケガをする恐れがあります。お手入れは包丁を取り出してから行ってください。
- ◎ロック付包丁差しの前面カバーロック部は必ずロック状態で使用してください。
前面カバーが外れて包丁がむき出しになる恐れがあります。
- ◎ロック付包丁差しの前面カバーロック部のつまみや溝につめを引っ掛けて回さないでください。
つまめがはがれたり、ケガをする恐れがあります。
- ◎包丁差しの固定ねじがゆるんでガタつきが発生したときは、ねじを締め直してください。
包丁差しが外れてケガをする恐れがあります。
- ◎足元収納を引き出したまま、作業しないでください。
足をぶつかけたりして、ケガをする恐れがあります。
- ◎足元収納を引き出して、足場代わりにしないでください。
転倒してケガをしたり、商品の破損の恐れがあります。
- ◎足元収納を引き出すときは、足元に注意して引き出してください。また、他の作業者やお子様など周囲の人にも注意してください。
足の指をはさみ込んで、ケガをする恐れがあります。
- ◎ムーブダウン吊戸棚の収納物をはみ出したまま昇降させないでください。収納物の落下によるケガや、ラック、キャビネットの破損の恐れがあります。
- ◎ムーブダウン吊戸棚には割れやすいもの、不安定なもの、包丁・薬品・熱せられた調理道具などの危険なものを収納しないでください。
収納物が落下し、ケガをする恐れがあります。また、高さガイドバーより高いものを収納しないでください。
- ◎ムーブダウン吊戸棚の操作部以外に手をかけたり、機構部や本体のすき間に手を入れないでください。
手をはさむ恐れがあります。



安全にお使いいただくために

⚠ 注意

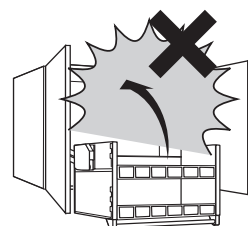
◎ムーブダウン吊戸棚は勢いよく昇降しないでください。
収納物が落下し、ケガをする恐れがあります。また、故障の原因になります。



◎ムーブダウン吊戸棚の操作レバーにものを引っ掛けないでください。
収納物が落下し、ケガをする恐れがあります。また、故障の原因になります。



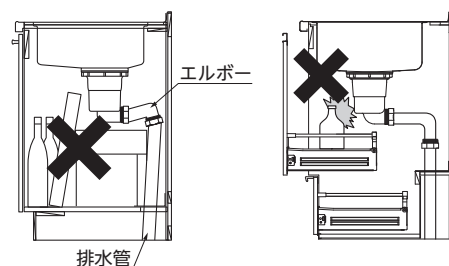
◎ムーブダウン吊戸棚のバネ切り替えレバーは、収納重量に対して適切にセットしてください。
収納ラックが勢いよく戻ったり、急降下して収納物が落下したり、収納ラックが変形・落下したりして、ケガをする恐れがあります。



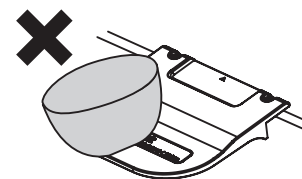
◎落下防止バーは左右の溝に正しくセットしてください。
正しくセットしていない場合、収納物が落下したり、落下防止バーが落下するなど、ケガをする恐れがあります。



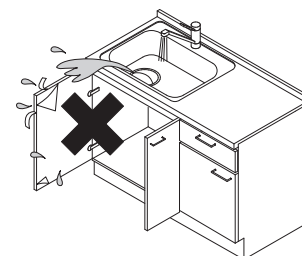
◎シンクキャビネット内部には排水管がありますので、収納物を出し入れするときはご注意ください。
また、無理に収納物を押し込むようなことは、絶対にしないでください。
排水管が収納物に押され、外れてしまう恐れがあり、水漏れの原因になります。



◎トラップガードの位置を移動させたり、取り外したりしないでください。また、トラップガードの上に収納物を載せないでください。
収納物と排水器具が接触し、水漏れの原因になります。



◎引出し前板・扉・サイド化粧板・キャビネット・取っ手に水などが垂れたときには、すぐに拭き取ってください。
変色・変質の原因になります。



◎ダイニング側の床面には油などの飛び散りが想定されます。床面に油などが飛び散ったら、すぐに拭き取ってください。
足を滑らせて転んでケガをする恐れがあります。



◎ダイニング側のカウンター部には、注意してください。
小さなお子様の場合、頭や顔などをぶつけてケガをする恐れがあります。



安全にお使いいただくために

⚠ 注意

◎ワークトップやキャビネット、扉、パネルなどを加工したり、改造したりしないでください。
故障や破損の原因になります。



◎水切り棚に重いものを載せたり、ぶら下がったりしないでください。
収納物が落下し、ケガをする恐れがあります。



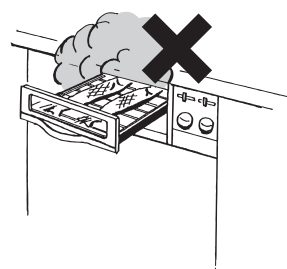
水 栓

◎混合水栓を使用するときは、必ず水を先に出してください。
湯を先に出すと、水栓および熱湯で、やけどをする恐れがあります。特に、お子様のいらっしゃるご家庭では気をつけてください。



組込機器類など

◎調理機器のグリル扉を開けたまま、グリルを使わないでください。
機器上部が変色したり、ワークトップが焦げたり、破損することがあります。また、隣接する扉が変形することがあります。



洗剤類

◎台所で使われる洗剤・殺虫剤・防腐剤・その他薬品類は、それぞれの容器などに表示されている事項をお守りください。
使い方を誤ると、人体に悪影響を及ぼしたり、キッチン本体や機器類が傷み、水漏れ事故や故障の原因になることがあります。



◎台所では成分表示のない洗剤類、台所以外の用途である洗剤類は使用しないでください。
キッチン本体が傷み、水漏れ事故や故障の原因になることがあります。



◎固形または粉末の塩素系の洗剤（ヌメリ取り剤など）を使用したり、近づけたりしないでください。
水や湿気に反応して発生するガスが、ステンレスなどの金属やゴムの腐食・劣化およびサビを発生させ、水漏れにつながる場合があります。



ご使用方法について

■シンクやワークトップのサビや傷などを防ぐために

◎ぬれた包丁・缶詰・塩・しょうゆ、または鉄製タワシなどステンレス製以外の金属を長時間放置しないでください。
サビの原因になります。



◎粒子の粗い、または研磨材含有量が多い（20%を超えるもの）クレンザー類や金属タワシなどで、表面をこすらないでください。また、ワークトップをまな板代わりに使用しないでください。
傷がつく恐れがあります。



◎漂白剤・硫酸・塩酸などの強酸、塩素系、シンナー、ベンジンなどの溶剤によるお手入れは避けてください。
変質・変色・サビの原因になる場合があります。
また、扉や取っ手のお手入れには家具用ワックス、シンナー、ベンジン、カビ取り剤などを使用しないでください。
変色したり、光沢がなくなることがあります。



◎塩素系やアルカリ性の排水パイプ用洗浄剤がシンク金属部に付着した場合は、すぐに十分な水できれいに洗い流してください。
サビや変色の原因になります。



◎本体およびワークトップに強い衝撃を与えないでください。また、ワークトップに乗らないでください。
破損の原因になります。



◎熱い油鍋、沸騰したやかんなど、熱いものをワークトップの上に直接置かないでください。
変色・変形・ふくれ（ステンレス製ワークトップの場合は、裏面接着剤のはがれが原因）などの恐れがあります。
万一、置く場合は、鍋敷き（厚さ 1 cm以上）などを使用してください。



◎熱い油鍋をシンクの中に直接置かないでください。
変色・変形などの恐れがあります。



◎人工大理石ワークトップの上に、アルカリイオン整水器・食器洗い乾燥機など、ゴム脚・樹脂脚がついているものやゴム製品を長期間設置しないでください。接地面が変色してくることがあります。直接ワークトップに触れないよう、置き台などで工夫してください。



◎色の濃い食品（キムチ、カレー、紅茶、コーヒーなど）や色の濃いふきん類の染料、汚れ、またはアルカリ性洗剤・洗浄剤が付着した場合は、すぐに洗ってください。長時間放置すると落としにくくなります。

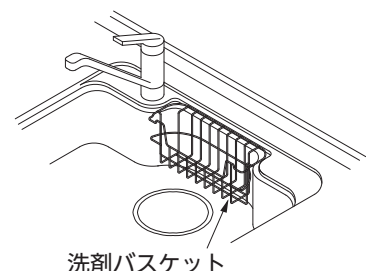


■洗剤バスケットの使い方（洗剤バスケット付シンクのみ）

●洗剤バスケット内には、洗剤やスポンジなどを入れます。

●洗剤バスケットは取り外して洗うことができます。

※お手入れ方法や取り外し方については、P.24 ～ P.25 をお読みください。



ご使用方法について

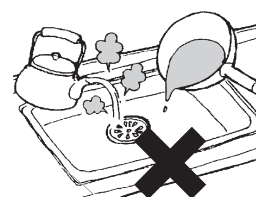
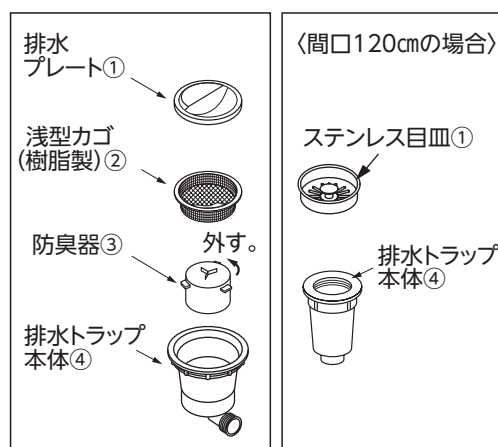
■排水トラップの使い方

- 排水トラップは、右図の構成になっています。
 - 排水トラップの役割は、封水することにより、排水管からの悪臭を防止し、防虫することです。
 - 浅型カゴ②やステンレス目皿①は、調理クズを一時ためておくところです。必ず取り付けてください。
取り付けないと、悪臭の原因になったり、調理クズなどが排水口に流れ込み、排水の流れが悪くなる恐れがあります。
 - 浅型カゴ②やステンレス目皿①にためたゴミは、半日以上ためると悪臭が発生する原因になりますので、こまめに捨ててください。
 - 防臭器③は、排水管からの悪臭を防止し、防虫するところです。間口 120 cm の場合は、排水トラップ本体④と一体になっている防臭器で排水管からの悪臭を防止しています。
 - 防臭器③は、トラップ本体内部の清掃と高圧洗浄を行う際に取り外すものです。
通常使用の場合は取り外さないでください。
排水管からの悪臭が発生します。
- ※ゴミ処理およびお掃除の際は、①～③の順序で取り外してください。
間口 120 cm の場合は、①のみ取り外してください。
- ※防臭器③は、反時計回りに回すと簡単に取り外すことができます。
- ※お手入れ方法や取り外し方については、P.24 をお読みください。

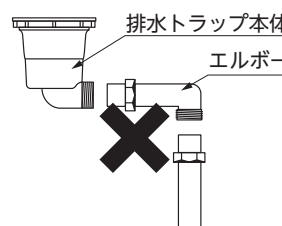
◎てんぷら油や多量の熱湯を、直接排水口に流さないでください。
適切な処理をほどこし、ゴミとして廃棄してください。
排水器具などが変形し、水漏れの原因になることがあります。

◎熱湯を流すときは、十分な量の水を流すなどして温度を下げてください。

◎排水接続部の取り外しは、絶対にしないでください。
水漏れの原因になります。



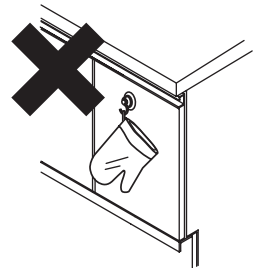
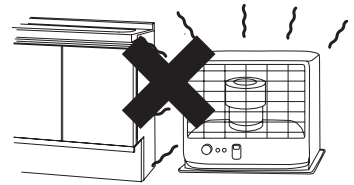
排水接続部の分解禁止



ご使用方法について

■キャビネットの使い方

- ◎キッチン本体にストーブ・暖房器具などを近づけないでください。
キャビネットや扉などの反りや変形の原因になる恐れがあります。
- ◎扉やパネルなどにテープや吸盤などを長期間取り付けたまにしないでください。
変色、はがれ、ふくれなどの恐れがあります。
- ◎引出し前板や側板、扉やキャビネットに水をかけたまま放置しないでください。
ふくれの原因になります。
- ◎キャビネット庫内に調味料などは、長期保存しないでください。室温や調理機器の加熱時間によってキャビネット庫内は温度変化します。調味料などは記載されている保存方法に従い、適切な方法で保存してください。調味料などは、温度変化によって劣化する恐れがあります。
- ◎間口の大きな引出しや足元収納引出しは、取っ手の端部を持って開閉しないでください。
扉がガタつき、引き出しにくくなる恐れがあります。
- ◎引出しを開けた状態で上から無理な力をかけないでください。引出し本体や収納物が落下し、ケガをする恐れがあります。



■包丁差しの使い方

※包丁差しのお手入れ方法については、P.25 をお読みください。

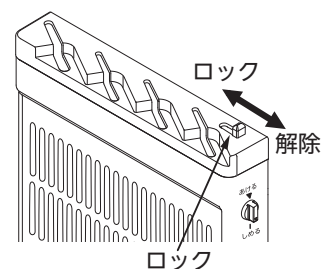
- ◎包丁は水気をよく拭き取ってから収納してください。
ぬれたまま収納すると、扉や引出しに変形・腐食する恐れがあります。
- ◎確実に包丁を差し込んでください。
扉を引き出したときに包丁がガタつき、思わぬケガをする恐れがあります。



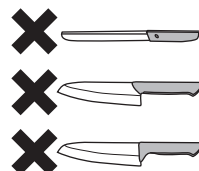
ご使用方法について

■包丁差しの使い方 (つづき)

- 包丁差しのロックつまみを押しながら内側へスライドさせると、包丁が抜けないようにロックされます。



◎刃と柄の部分に段差の少ないものや柄の形状によっては、ロックが掛からず、引出しを引いた際に包丁が飛び出す恐れがあります。

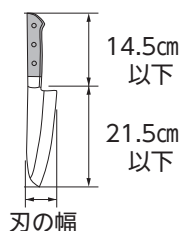


◎ロックを掛けるときは“カチッ”というまでロック方向にずらしてください。しっかりとロックが掛からず包丁が抜ける恐れがあります。

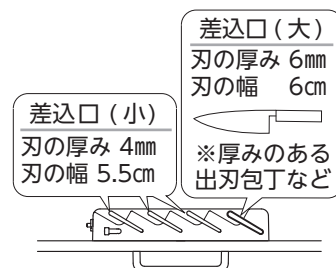


- 包丁は4本収納することができます。包丁差しには差込口が大小2タイプあります。刃の厚みがある出刃包丁などは、差込口（大）に収納してください。

〈収納可能なサイズ〉



◎包丁の形状によっては、右図の寸法を満たしていても収納できない場合があります。

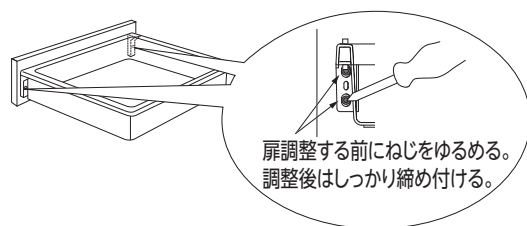


■引出しの脱着・調整のしかた

〈引出し（樹脂）の脱着・調整〉

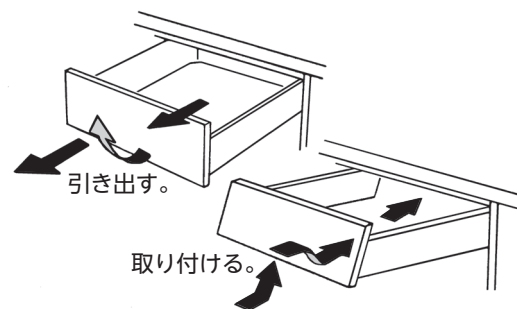
●引出し前板の調整のしかた

- (1)引出し外側の引出し前板を固定しているねじを、⊕ドライバーでゆるめ、引出し前板を調整してください。
- (2)調整後、(1)でゆるめたねじを締め直してください。



●引出しの脱着のしかた

- 引出しをストップするところまで引き出し、持ち上げながら引くと外れます。
- 引出しを取り付けるときは、上記と逆の手順で取り付けてください。



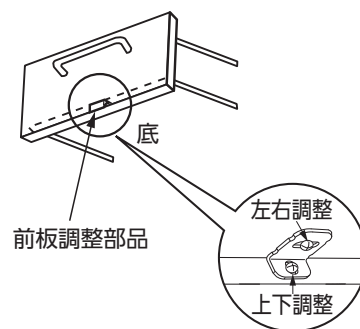
ご使用方法について

■引出しの脱着・調整のしかた (つづき)

〈スタンダードレール引出しの脱着・調整〉

●調整の前に

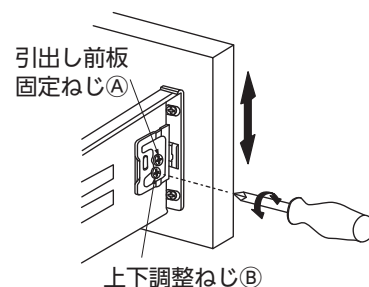
- コンロ下およびシンク下の引出し (W600 以上) については、扉裏面と引出し底板に前板調整部品がついています。
引出し調整の際は、必ずねじをゆるめて調整してください。その後、必ずねじを締め直してください。



●引出し前板の調整のしかた

●上下調整

- (1) 引出し両側面にある引出し前板固定ねじ①を⊕ドライバーでゆるめてください。
- (2) 上下調整ねじ②で引出し前板の位置を調整してください。
- (3) 引出し前板固定ねじ①を締め直してください。

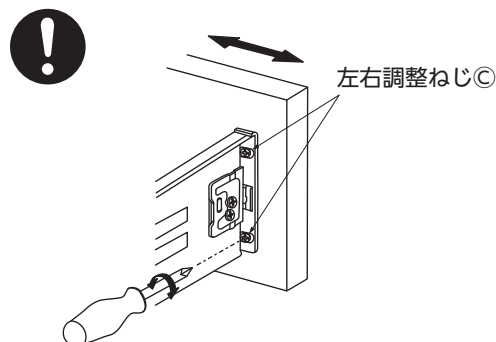


◎ねじのゆるめすぎには気をつけてください。

引出し前板が落下して、ケガをする恐れがあります。

●左右調整

- (1) 引出し両側部にある計 4 本の左右調整ねじ③を、⊕ドライバーでゆるめてください。
- (2) 引出し前板の位置を調整してください。
- (3) 4 本の左右調整ねじ③を締め直してください。

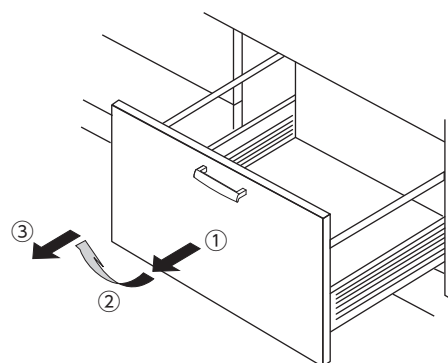


- 扉の左右両端とキャビネットの外側との間隔が 1 mm 以上になるよう左右調整してください。

- 扉面とキャビネットが平行になるように調整してください。

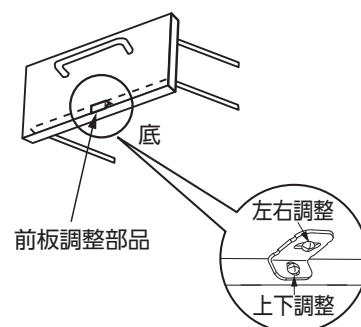
●引出しの脱着のしかた

- 引出しをストップするところまで引き出し、持ち上げながら引くと外れます。
- 引出しを取り付けるときは、上記と逆の手順で取り付けてください。



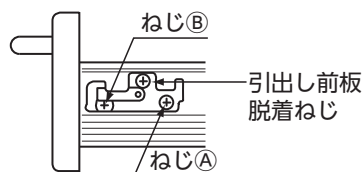
〈サイレントレール引出しの脱着・調整〉

- シンクキャビネット、コンロキャビネット、ベースキャビネットの引出し (W600 以上) には、扉裏面と引出し底板に前板調整部品がついています。
引出し調整の際は、必ずねじをゆるめて調整してください。その後、必ずねじを締め直してください。

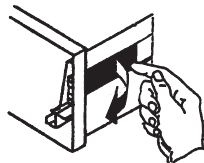


ご使用方法について

■引出しの脱着・調整のしかた (つづき)



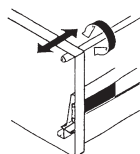
●脇カバーを外します。



カバー下側を上へ押し上げ
気味に外します。

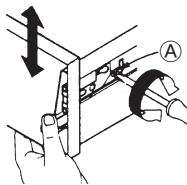
●前板傾き調整

(ギャラリパイプ付の場合)



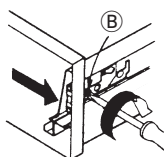
ギャラリパイプを左に回すと
手前に右に回すと奥に傾きます。

●上下調整



ねじ①を左右に回して
調整します。

●左右調整



ねじ②を手前側に回すと左に
奥側に回すと右に動きます。

※調整終了後は、必ず脇カバーを取り付けてください。

◎コンロキャビネットの引出しは、コンロと接触しないように調整してください。

コンロと扉や取手がこすれて、傷の原因になります。

●引出しの外し方

●引出しをストップするところまで引き出し、少し持ち上げて(“パチッ”と音がしてロックが外れます)、レールと平行に静かに引き出してください。

●引出しの入れ方

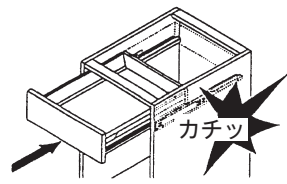
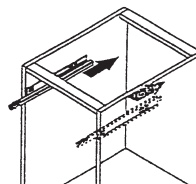
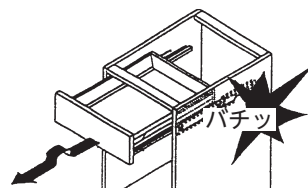
●受けレールを奥まで入れます。

●引出しの奥 1/3 くらいを受けレールに載せ、レールと平行に静かに奥まで押してください。
(“カチッ”と音がしてロックが掛かります)

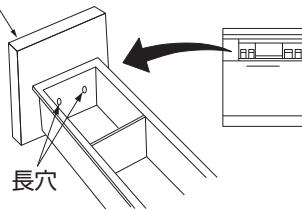
〈コンロキャビネットのコンロ横引出し前板の調整〉

●前板を固定しているねじは長穴になっていて、前板の上下調整をすることができます。ねじをゆるめて調整してください。

その後、必ずねじを締め直してください。



コンロ横引出し前板



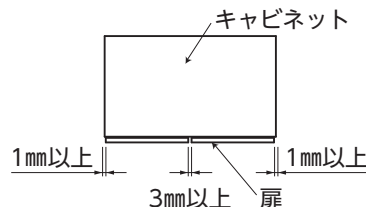
■扉の調整のしかた

◎扉を調整する場合は、ねじのゆるめすぎに気をつけてください。ねじをゆるめすぎると扉が落ちて、ケガをする恐れがあります。

●調整前に丁番、座のゆるみがないことを確認してください。ゆるみがある場合は、丁番と座を取り付けているねじをしっかりと締め付けてください。

●扉面とキャビネットが平行になるように調整してください。

●扉の左右両端とキャビネットの外側との間隔が 1 mm 以上になるよう左右調整してください。
また、左右両開き(観音開き)扉の場合は、扉と扉のすき間が 3 mm 以上になるようにしてください。

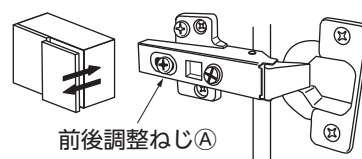


ご使用方法について

■扉の調整のしかた (つづき)

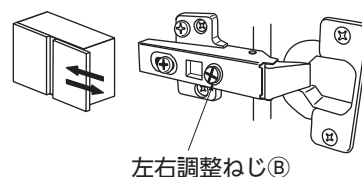
●前後調整のしかた

前後調整ねじ①を時計回りに回すとキャビネットと扉の間隔は狭くなり、反時計回りに回すとキャビネットと扉の間隔は、広がります。



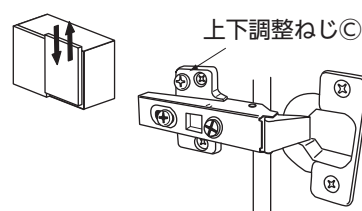
●左右調整のしかた

左右調整ねじ②を反時計回りに回すと側板と扉の間隔は広くなり、時計回りに回すと側板と扉の間隔は、狭くなります。



●上下調整のしかた

上下調整ねじ③をゆるめ、座を上下に調整後、再び上下調整ねじ③をしっかりと締め付けてください。



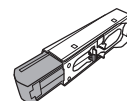
〈サイレントダンパーの脱着・調整 (オプション)〉

●サイレントダンパーについて

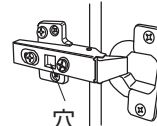
※サイレントダンパーは機構上、すべての丁番にはついていません。

扉の片側（上部または下部）、もしくは扉の大きさによっては両側（上部および下部）についている場合があります。

〈サイレントダンパー〉

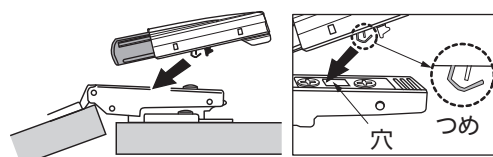


〈丁番〉

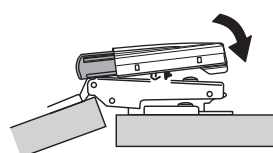


●サイレントダンパーの取り付け方

(1)サイレントダンパー裏面のつめを、丁番の長方形の穴に入れ、手前側（扉側）に少し押しします。



(2)つめを穴の手前側に入れた状態で、サイレントダンパー後方を“カチツ”と音がするまで丁番側に押し込みます。

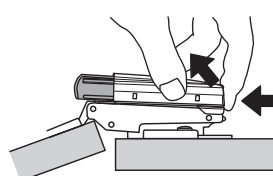


“カチツ”と音がするまで押し込む。

●サイレントダンパーの取り外し方

●サイレントダンパーの後方を押しながら、手前に引いてください。

※サイレントダンパーを外したときは、必ず元の丁番に取り付けてください。

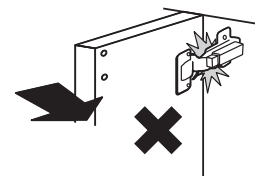


サイレントダンパー後方を押しながら、手前側に引く。

◎サイレントダンパーを脱着する際は、必ずこの方法で行ってください。無理に脱着するとサイレントダンパーのつめが変形し、落ちて、ケガをする恐れがあります。



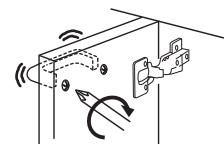
◎扉を無理に力を入れて急に閉めないでください。サイレント効果が弱まるばかりではなく、サイレントダンパーが破損する恐れがあります。



ご使用方法について

■取っ手の調整のしかた

- 取っ手のねじがゆるんだときは、⊕ドライバーでねじを締め付けてください。



■ワークトップ上に炊飯器などを置いて使う場合

- 吊戸棚に直接蒸気がかかるような使い方をすると、結露^{けつろ}により水滴がつき、キャビネットの塗装がはがれたり、ふくらんだりする場合があります。水滴を乾いた布で拭き取ってください。



■扉開放防止部品付キャビネットの使い方

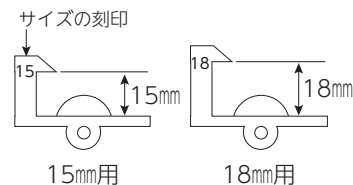
- 扉開放防止部品は、地震などの揺れにより、ロック機構が働き、扉が開かなくなります。使用環境、または状況など（建物の構造・階数、吊戸棚の収納状態、振動の大きさ・性質）により、性能を十分に発揮できない場合がありますので、ご注意ください。
なお、収納物の破損など（損害）については、補償の対象になりません。
- 地震が終わり、揺れが止まると、自動的にロックが解除されます。ただし、収納物が扉を押した状態でロックされたままになっている場合は、収納物が破損しないように扉を奥へ静かに閉めてください。
- 扉を開ける際は収納物が出てくることもありますので、ご注意ください。

ご使用方法について

■棚板の取り外しと取り付けのしかた

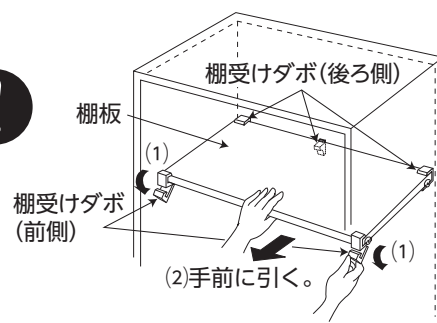
●棚板の取り外し方

- (1)前側の左右の棚受けダボのつまめ部分を、棚板を押さえながら、“パチン”と音がして外れるまで手前へ強く引いてください。



- (2)棚板を前へ引いて取り外してください。

◎棚受けダボは、棚板の厚さ（15 mm、18 mm）によってサイズが異なります。必ず棚板と組み合わせて使用、保管してください。棚受けダボのサイズは、ダボ横に刻印されています。



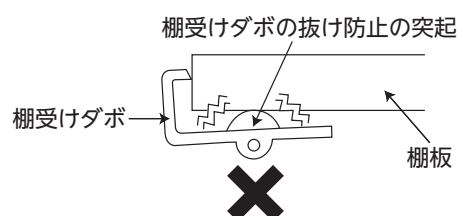
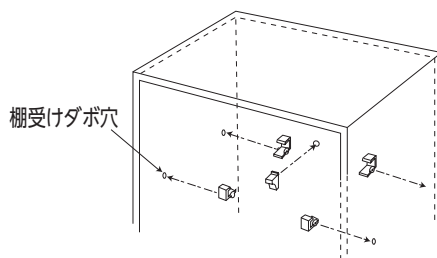
●棚板の取り付け方

- (1)右図のように、棚受けダボを棚受けダボ穴に根元まで差し込んでください。

※幅の大きい棚板は、キャビネット背板の中央部分にも棚受けダボがあります。

※差し込みが浅いと、棚板が棚受けダボの抜け防止の突起部分に当たり、棚受けダボが破損する恐れがあります。

※棚板をセットするときは、棚受けダボにある「抜け防止の突起」を変形させないでください。
棚板のガタつきの原因になります。



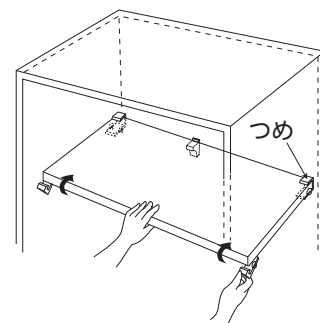
- (2)まず、後ろ側の棚受けダボのつまめに棚板をしっかりとめ込んでください。

- (3)棚板を押さえながら、前側の棚受けダボを下から強く押し上げてください。

つまめが棚板にはめ込まれ、“パチン”という音がするまで押し上げてください。

- (4)棚板にガタつきがないか、確認してください。

※ガタつきがある場合は、再度取り付け直してください。

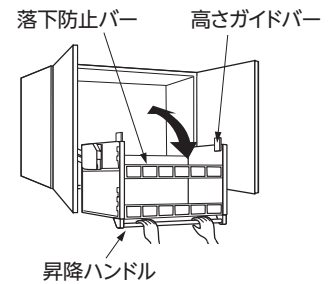


ご使用方法について

■ムーブダウン吊戸棚の使い方

- ムーブダウン吊戸棚は、昇降バネの強さを切り替えることができるので、収納量が多くても軽い力で降ろせる可動式の吊戸棚です。

昇降ハンドルを持って、収納ラック内の収納物を出し入れすることができます。



- ◎落下防止バーを持って引き出さないでください。
落下防止バーが外れたり曲がったりする恐れがあります。



- ◎収納ラックを引き出す場合は、両手で昇降ハンドルを持ってゆっくりと引き降ろしてください。
勢いよく引き出すと、収納物の落下の原因や機構部の故障の原因になります。



- ◎収納ラックが降りてくる範囲には、背の高いものや突起物を置かないでください。
収納ラックとぶつかり、破損する恐れがあります。



- ◎落下防止バーを必ず掛けて使用してください。
昇降時に収納物が動いて落下する恐れがあります。



- ◎割れやすい食器やぬれたものを収納しないでください。
破損やサビの原因になります。



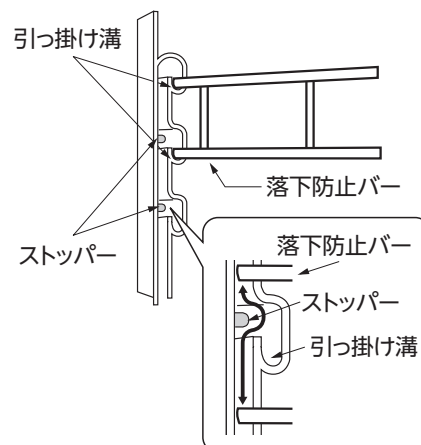
- ◎調理作業時などに、収納ラックを降ろしたまま放置しないでください。
頭などをぶつける恐れがあります。



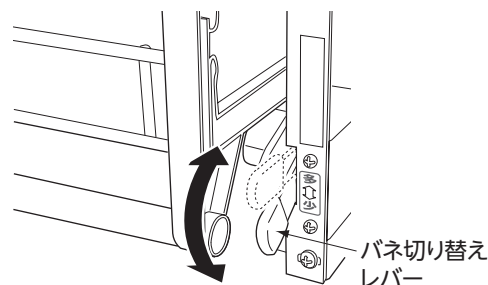
ご使用方法について

■ムーブダウン吊戸棚の使い方 (つづき)

- 収納物に合わせて、落下防止バーの位置を調節してください。
落下防止バーを両手で持ち、引っ掛け溝から外して、右図のようにストッパーを避けながら上下に移動させてください。
位置が決まったら、落下防止バーの両端を確実に、引っ掛け溝に入れてください。
正しくセットしていない場合、落下しケガをする恐れがあります。



- 使い始めの何も収納物が載っていないときは、バネ切り替えレバーを左右とも「少」の位置にしてから、引き下げてください。
それ以外の位置では、操作が重く感じます。



- バネ切り替えレバーがついています。右の表を目安にバネ切り替えレバーを収納物の重さに応じて調節し、適切な範囲で使用してください。
また、収納物の出し入れの後には必ず操作性を確認して、必要があれば調節してください。
- 収納ラックが下がっているときには、レバーは切り替えできません。収納ラックを上げて、レバーを調整してください。

収納重量 (目安)	左レバー 操作量	右レバー 操作量
0 ～ 5 kg	少	少
5 ～ 10 kg	少	多
	多	少
10 ～ 15 kg	多	多

お手入れ方法について

■ステンレスワークトップ、ステンレスシンク、排水プレート・排水フタのお手入れ

通常汚れ

水を含んだ布または中性洗剤をつけたスポンジで汚れを落としてください。洗剤を使った後は、水を含んだ布で洗剤が残らないようにきれいに拭き取ってください。最後に乾いた布で乾拭きをしてください。

※汚れを長時間放置すると、こびりついて落としにくくなります。こまめにお手入れしてください。

※ワークトップを部分的にお手入れすると、拭き取った部分が変色したように見える場合がありますが、変色ではありません。ワークトップ全体をお手入れするようにしてください。

落ちにくい汚れ

中性洗剤をつけたメラミンフォーム、または粒子の細かい（研磨材 20%以下）クレンザー（液体クレンザーなど）を使用してください。仕上げは、通常の汚れの場合と同様に行ってください。

■人工大理石ワークトップのお手入れ

通常汚れ

水を含んだ布または中性洗剤をつけたスポンジで汚れを落としてください。洗剤を使った後は、水を含んだ布で洗剤を拭き取ってください。最後に乾いた布で乾拭きをしてください。

※汚れを長時間放置すると、こびりついて落としにくくなります。こまめにお手入れしてください。

落ちにくい汚れ

中性洗剤をつけたメラミンフォームまたは粒子の細かい（研磨材 20%以下）クレンザー（液体クレンザーなど）で円を描くように磨いてください。それでも落ちない場合は、研磨粒子入りの洗浄具（推奨品：住友スリーエム株式会社 スコッチ・ブライト抗菌ウレタンスポンジたわしのナイロン不織布側（緑色側））で円を描くように磨いてください。仕上げは、通常の汚れの場合と同様に行ってください。

※シンクの底面以外の場所（側面など）の落ちにくい汚れをお手入れする際は注意してください。つやがなくなり、傷がつく恐れがあります。

傷がついたとき

液体クレンザーと目の細かいサンドペーパー（推奨：400 番）を使って磨いてください。傷が深い場合は、最初に目の粗いサンドペーパー（推奨：240 番）を用い、その後、目の細かいサンドペーパー（推奨：400 番）で磨いてください。仕上げは、通常の汚れの場合と同様に行ってください。

※汚れや傷のお手入れをした箇所と、その周辺に光沢の違いが見られる場合は、液体クレンザーと水を含んだスポンジで、さらに全体を磨いてください。

深い傷や欠けが発生したとき

担当のハウスメーカー営業所またはクリナップ株式会社までご連絡ください。

ただし、傷・欠けの状況により、修理不可能の場合もあります。

お手入れ方法について

■排水トラップのお手入れ

- 排水プレート①またはステンレス目皿①、浅型カゴ②の汚れは、週に1回以上、中性洗剤（またはせっけん液）を使用して汚れを落としてください。
- 防臭器③、排水トラップ本体④のお手入れは月に1回を目安に行い、臭いやつまりを感じたら、その都度行ってください。汚れは、中性洗剤（またはせっけん液）をスポンジや洗浄ブラシなどにつけて、こすり落としてください。汚れが落ちたら、洗剤をきれいに洗い流してください。防臭器③、排水トラップ本体④に汚れが残ったまま防臭器③を取り付けると、配管から臭気がシンク側へ漏れて悪臭の原因になります。

※ゴミ処理およびお掃除の際は、①～③の順序で取り外してください。

間口120cmの場合は、①のみ取り外してください。

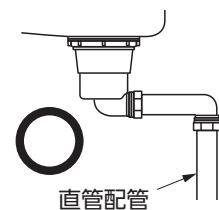
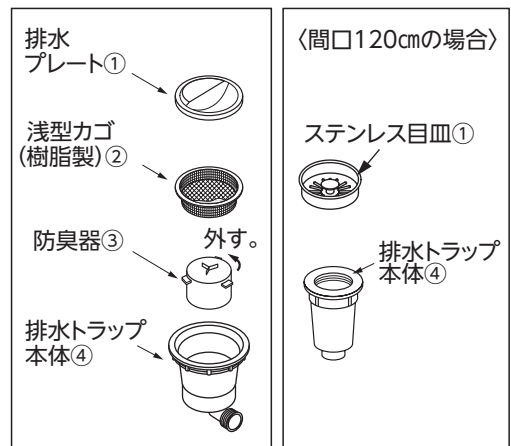
※防臭器③は、反時計回りに回すと簡単に取り外すことができます。

◎排水管洗浄業者による排水管の集中洗浄（高圧洗浄）をする場合は、下記に注意し、洗浄する業者と打ち合わせしてください。

- ・排水トラップ本体④に高い水圧をかけないでください。排水器具などが変形し、水漏れの原因になることがあります。
- ・集中洗浄（高圧洗浄）機についているホースは樹脂製を推奨します。
- ・高圧洗浄を行う場合は、防臭器③を取り外してください。防臭器③は反時計回りに回せば取り外せます。洗浄後は、防臭器③を時計回りに回して取り付けてください。

※フリーパイプや肉厚管（VP管）などで直管配管している場合のみ、高圧洗浄が可能です。

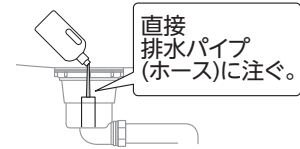
〈部品図〉



お手入れ方法について

■排水パイプ・ホースのお手入れ

- 週に1回、防臭器③またはステンレス皿目①を取り外し、洗い桶に1～2杯（5～10ℓ）のぬるま湯をため、台所用中性洗剤を混ぜて薄めた後、勢いよく流してください。
- 月に1回、排水プレート①、浅型カゴ②、防臭器③を取り外し、排水パイプ用洗剤を直接排水パイプ（ホース）に注ぎ、洗浄してください。洗浄後は、十分に水を流してください。
※上記部品は、P.23〈部品図〉を参照ください。
※I型けこみタイプの場合は、①②を取り外してください。
※必ず使用前に、排水パイプ用洗剤の使用方法・注意をお読みください。
※万一、使用不可の洗剤を誤って使用した場合やシンクやワークトップに洗剤が付着した場合は、すぐに十分な水で洗い流してください。サビや変色の原因になります。



洗剤

使用判断	種類	液性・成分・材質	使用制限内容および調理アイテムへの影響	洗剤名・洗浄具名（参考事例）
○ 使用できるもの	洗剤類 台所用洗剤	中性・弱アルカリ性・弱酸性洗剤		 各種『ファミリーシリーズ』（花王株式会社）  各種『チャーミーシリーズ』（ライオン株式会社）
△ 条件付で使用できるもの	排水パイプ用 排水パイプ用洗剤	塩素系のアルカリ性洗剤	・月1度のお手入れのみ使用する。 ・長時間接触による固着・変色の恐れ。 ↓ ステンレス・人工大理石に付着した場合は、すぐに十分な水で洗い流す。	 塩素系のアルカリ性洗剤
× 使用不可	排水パイプ用 排水パイプ用洗剤	ケイ酸塩（『オルトケイ酸ナトリウム』と成分表示している洗剤）	長時間接触による固着・変色の恐れ。	 オルトケイ酸成分
	排水口洗浄剤	固形または粉末の塩素系の洗浄剤（ヌメリ取り剤など）	腐食・サビの恐れ。	 ヌメリ取り剤
	その他 トイレ用など	酸性の洗浄剤（塩酸・硫酸・フッ酸などの強酸、研磨材入りの酸性の洗浄剤）	サビ・変色の恐れ。	 酸性の洗浄剤
	業務用洗剤	業務用洗剤	長時間接触による固着・変色の恐れ。	 業務用洗浄剤

■洗剤バスケットのお手入れ（洗剤バスケット付シンクのみ）

- 通常のお手入れは、綿などの柔らかい布で乾拭きしてください。
- 汚れは、洗剤バスケットを外し、中性洗剤（またはせっけん液）をスポンジまたは水を含んだ布につけて、強めに拭いてください。
汚れが落ちたら、水を含んだ布で洗剤を拭き取り、最後に乾いた布で乾拭きしてください。
- 汚れがたまったらそのまま放置しないでください。ステンレスシンクのサビの原因になります。

お手入れ方法について

■洗剤バスケットのお手入れ（洗剤バスケット付シンクのみ）（つづき）

●洗剤バスケットの取り外し方

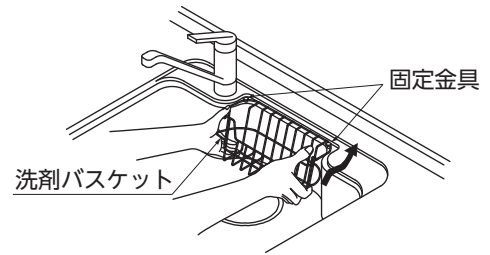
※取り外すときは、洗剤やスポンジなどの収納物やプレートを取り出してから行ってください。

- 洗剤バスケットの前面を持ち、奥側へ傾け、固定金具から外した状態で上に持ち上げてください。

●洗剤バスケットの取り付け方

- 取り外したときと逆の手順で、洗剤バスケットが固定金具にきちんとはまるように取り付けてください。

〈ステンレスシンク〉



■包丁差しのお手入れ

- 薄めた中性洗剤を布などに含ませ、汚れを落とします。次に、水を含んだ布で洗剤を拭き取り、その後、乾拭きしてください。

◎包丁差しの部品を取り外す前に、包丁はすべて外してください。
思わぬケガをする恐れがあります。

- 包丁差しの前面カバーは、取り外し可能です。取り外して、掃除してください。

- 前面カバーを取り外す場合は、次の手順で行ってください。

1. 前面カバーロック部のつまみ「△」が前面カバー側面の「I」から「▼」に合うよう、反時計回りにつまみを 180 度回す。

このとき印をぴったり合わせないと前面カバーが外れないようになっています。

2. 前面カバーロック部のつまみに右図のように指を引っ掛け、前面カバーを本体から取り外す。

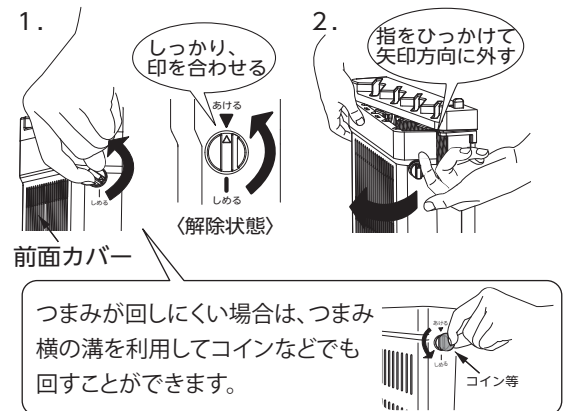
- 取り付けは、その逆の手順で行ってください。

◎本体受けを固定しているねじは外さないでください。
包丁の落下につながる恐れがあります。

- ロック部は 180 度以上回せないようになっています。無理に回そうとするとロック部が破損する恐れがあります。

◎つまみ横の溝は、コインを利用して回すためのものです。つまみを引っ掛けて使用しないでください。ケガをする恐れがあります。

◎使用時は必ずつまみ部の「△」を「I」に合わせてください。



お手入れ方法について

■樹脂部品のお手入れ

- 薄めた中性洗剤を布などに含ませ、汚れを落とします。次に、水を含んだ布で洗剤を拭き取り、その後、乾拭きしてください。
- 洗浄力の強い洗剤成分、または油煙などの油成分を付着したまま放置すると、ひびや破損の原因になりますので、必ず拭き取ってください。
- 油脂類、シンナー、酸性の洗剤、塩素系やアルカリ性の洗剤などは使用しないでください。ひびや破損の原因になる恐れがあります。

■キャビネット、扉のお手入れ

- 通常のお手入れは、綿などの柔らかい布で乾拭きしてください。
 - 汚れは、薄めた中性洗剤をスポンジなどに含ませて落とします。次に、水を含んだ布で洗剤を拭き取り、その後、乾いた布で乾拭きしてください。
- ※家庭用ワックスは、変色の原因になる場合がありますので、使用しないでください。
- ※有機溶剤では拭かないでください。塗装が取れる場合があります。
- ※扉に付着した水滴は放置しないでください。扉の変色、はがれ、ふくれなどの原因になります。
- ※開き扉・引出し前板やパネルなどはメラミンフォーム（例：レック株式会社 激落ちくん）や金属タワシ、研磨粒子入り洗浄具などでお手入れしないでください。変色・つやや光沢がなくなったり、塗装がはがれる原因になります。

■丁番のお手入れ

- 丁番は、ときどき汚れやほこりを取り除いてください。
- また、ときどき潤滑油などを差すと、開閉がなめらかになります。

■関連機器のお手入れ

- 各機器に付属の取扱説明書をお読みください。

修理を依頼するとき

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、再度点検していただき、異常のあるときは、担当のハウスメーカー営業所またはクリナップ株式会社までお申し出ください。

また、ご連絡いただく際は、お名前、ご住所、お電話番号、ご購入年月日、症状およびキャビネット内に貼付してある検査済証の機種名・CSNo.・ロットNo. もあわせてお知らせください。

《キャビネット貼付シール》

検査済証 クリナップ株式会社 機種名
CS No.
ロットNo. 検査員

※CSNo.は、
記載されていない
場合もあります。

《お客様メモ》アフターサービスのご連絡に便利です。

ご購入年月日	年 月 日
ご購入店名	
	☎

廃棄処分について

- この商品を廃棄処分する場合は、必ず公的な許可を受けている処理業者にご依頼ください。

本商品についてのお問い合わせなどは、担当のハウスメーカー営業所またはクリナップ株式会社までご連絡ください。
お電話は、内容の確認と商品機能やサービスの質の向上などを目的として、記録・録音させていただくことがあります。
あらかじめご了承ください。なお、個人情報保護方針は <http://cleanup.jp/> に公表しております。

クリナップ株式会社